



シカの角切りを行いました。



▲ 大きな角が無いので一見メスに見えるかもしれませんが。

毎年春になると伸び始めるホンシュウシカの角。秋には立派に大きくなって皮がむけ、♂同士の闘争が始まります。限られたスペースで飼育している動物園では危険防止のため、今年も角切りを行いました。吹き矢で鎮静剤を打ち、眠くなったところで一気にのこぎりで切りました。今は切り株になっていますが、来年の春にはこれがポロリと落ち、また新しく生えてきます。



▲ 角はごつごつです。今年も、のこぎりの刃が何枚も折れました。

～新しい仲間がきます～

昨年、最後のヘラジカが死亡してから空き家になっていた獣舎に、新しい仲間がやってくる事が決まりました。群馬サファリと市原ぞうの国から、それぞれラマが1頭ずつ仲間入りします。彼らが新しい環境、川崎になじんでくれるよう、温かく見守っていただければと思います。



▲ 群馬の"タイタン"です。



お父さん似と言われます。

生後1年が過ぎ、すっかりおとなの体格のレッサーパンダ・ギンガ(右)。顔をよく見て比べると全然違うのですが、飼育担当でも一瞬見ただけだと父親のファファ(上)と間違えることもできました。



年賀状コンクールのお知らせ

動物園の動物たちへの年賀状を募集します！

★募集期間 平成27年1月1日～1月7日

★展示期間 平成27年1月14日～1月25日(事務所前)

詳しくはホームページにも掲載します。ご応募お待ちしております。



★ピックアップ動物★

ケツメリクガメ

爬虫綱 カメ目 リクガメ科



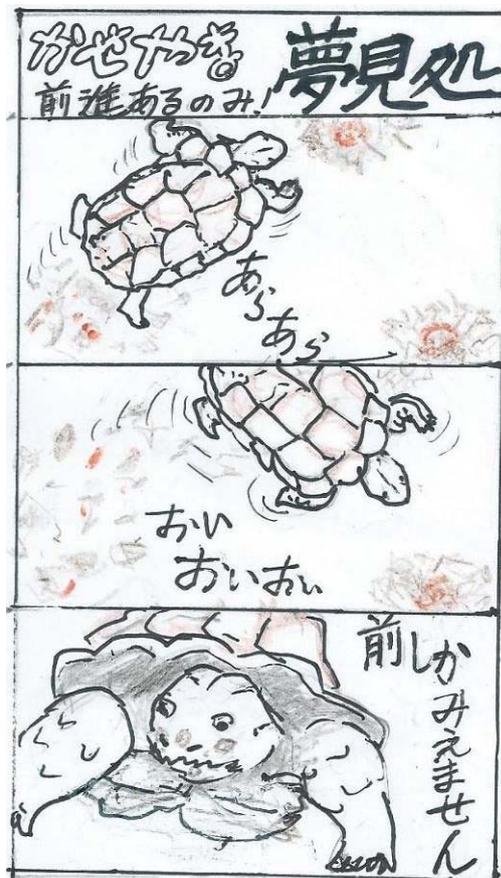
野生ではアフリカ大陸北部～東部の砂漠周辺やサバンナに暮らしていますが、生息環境の悪化や乱獲等により生息数が減少しています。完全な草食性で、草やサボテン、果実などを食べます。動物園では小松菜等の野菜も与えています。歯が無いので、鋭いくちばしで食いちぎります。

後肢のとげ状のうろこが「ケツメ（蹴爪）」の名の由来ですが、前肢もとげでおおわれており、また喉甲板（お腹側の一番前の部分）が飛び出した形をしているなどの特徴があります。ゆっくり動くイメージがあるかもしれませんが、意外と瞬発力があり、いざというときは素早く動きます。

寒さに弱いので、これからの季節は屋内にすることが多くなりますが、暖かい日は他のカメと一緒に外で日光浴をする姿が見られるかもしれません。

フサオマキザル部屋の前で、「表情豊か!」「〇〇さんに似てる~!」という声をよく聞きます。彼らにそのつもりが無くても、愛嬌のある顔をしているというのは同意します。顔の表情だけでなく、様々な仕草で表現する感情が人間に近く、共感しやすい動物だとも感じます。その中のみの1頭、ミッチが市原ぞうの国へ引越することになりました。現在は1頭で暮らしていますが、もともとは隣の家族と仲良くやっており、一緒にいました。ところが、ある日、なにがきっかけだったのかみ同士で喧嘩をしてしまい、ミッチは手にけがをいたしました。皮膚や筋肉が裂けており、人間だったら縫わなくてはなりません。が、このとき私たちが下した判断は「手を出さないこと」というのも、その前に足にけがをした兄弟のヨッチは手術をしたのですが、私たちが大学で習った「ほどけない」はずの糸の結び目を翌日には器用に全部自分でほどき、しかもあっという間にきれいに治ってしまったのを見ていたのです。そこで、このときは毎日気休めの様な消毒を行うのみにとどめました。その結果、今では完全に回復し、指もちゃんと動いています。この治癒力には本当に驚くとともに、獣医ができる「治す手強い」はほんのわずかなのだとつくづく感じました。そんな思い出を残してくれたミッチ、いなくなるのは寂しいですがどうか元気で!

獣医の日記



★動物たちの主な移動(平成26年8月1日～平成26年10月31日)★

マーコール(♂1死亡)、アメリカアカリス(♀1死亡)、パラワンコクジャク(♂1死亡)、ホンシュウジカ(♂1死亡)、ニホンキジ(♂1死亡)